

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和5年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第12号（3月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081 (代表)

099-245-1157 (直通)

099-245-1149 (FAX)

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス：<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>

(3月から新しいメールアドレスになりました)

メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp



農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理, 安全使用
2. 作物に対する安全 適期, 適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川, 湖沼, 海などへの汚染防止)
(養蚕, 養蜂などへの危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

農薬ラベルを確認しましょう

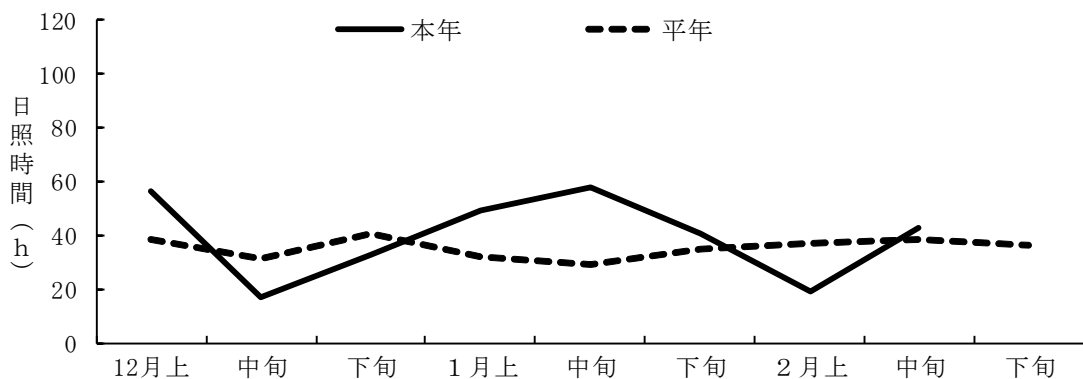
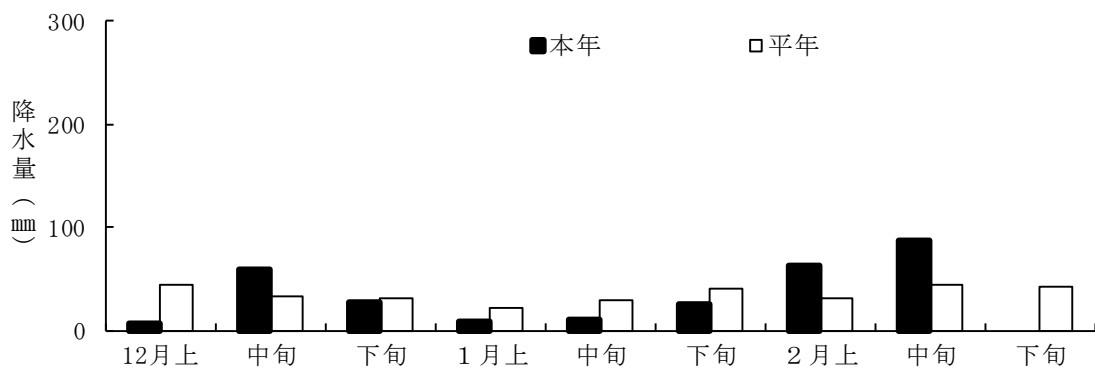
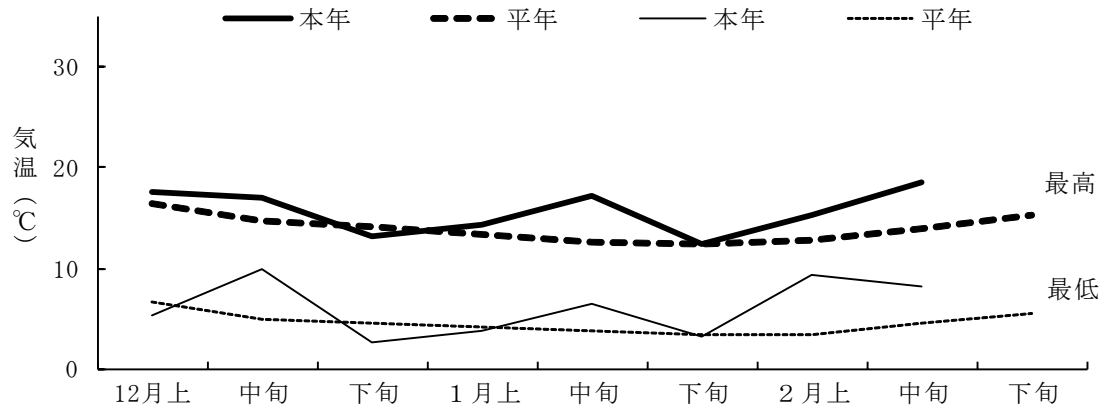
農薬の飛散(ドリフト)にも注意しましょう

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（2月24日から3月23日） 令和6年2月22日 鹿児島地方气象台 発表

要素	地域	確率（%）			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	30	40	30	九州南部では、気温、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込。奄美地方では気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多く、日照時間は少ない見込
	奄美地方	30	40	30	
降水量	九州南部	30	30	40	
	奄美地方	20	40	40	
日照時間	九州南部	40	40	20	
	奄美地方	50	30	20	

II. 12～2月の気象情報（鹿児島地方气象台 観測点：加世田）



【病害虫発生予報の概要】

作物		病害虫名等	発生量		
			現況	予報	
普通作物	サトウキビ	メイチュウ類	やや多	やや多	
野菜	キュウリ	べと病	やや少	やや少	
		退緑黄化病	並	並	
	トマト	灰色かび病	並	並	
		うどんこ病	やや多	やや多	
		コナジラミ類	多	多	
	ピーマン	斑点病	並	並	
		うどんこ病	並	並	
		アザミウマ類	並	並	
	イチゴ	アザミウマ類	多	多	
		ハダニ類	やや少	やや少	
	キャベツ	菌核病	やや多	やや多	
	エンドウ類	褐紋病・褐斑病	多	多	
		うどんこ病	多	多	
		ハモグリバエ類	並	並	
		アザミウマ類	やや多	やや多	
	バレイショ	疫 病（県本土）	並	並	
		〃 （熊毛地域）	やや多	やや多	
		〃 （奄美地域）	やや多	多	
	花き	キ ク	ハダニ類（県本土，施設）	並	並
			アザミウマ類（県本土，施設）	やや多	やや多
茶樹	チ ヤ	赤焼病	やや多	やや多	
		チャノコカクモンハマキ	やや多	やや多	
		チャハマキ	多	多	
		カンザワハダニ	並	並	

【病害虫発生予報】

I. 普通作物

1. サトウキビ

(1) メイチュウ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 奄美地域

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

2月中旬トラップ誘殺虫数

イネヨトウ5.2頭 (平年2.7頭)

: やや多い

カンシャシクイハマキ12.3頭 (平年8.2頭)

: やや多い

ウ 防除上注意すべき事項

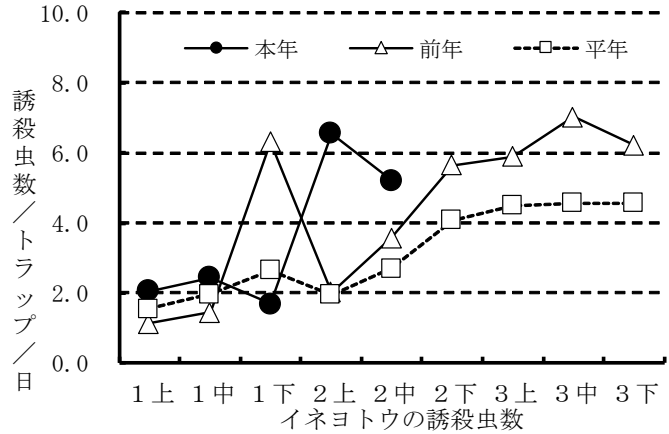
(ア) ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯等から食入し、生長点や茎内を加害して芯枯れを起こすため、防除が困難である。

(イ) 有効茎を確保するため、培土時および生育初期の予防が重要で特に秋植えや、収穫の早かった株出しなどは被害を受けやすいので注意する。

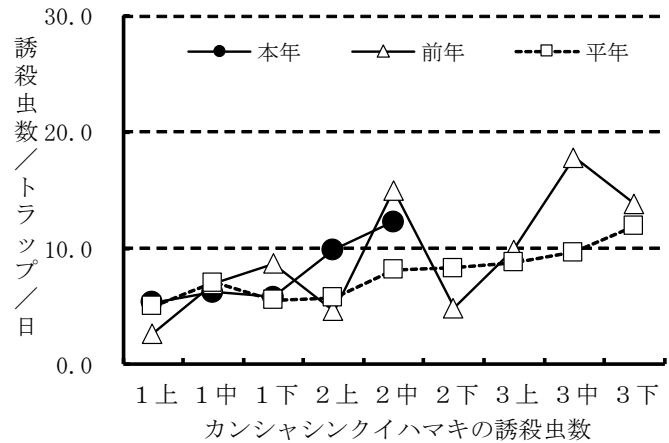
(ウ) 植付時は土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。植付時に粒剤を処理した場合、残効は40日程度を目安とし、その頃の被害状況に応じて防除をする。

(エ) 生育期は薬液が葉鞘内にきちんと浸透するように丁寧に散布する。

(オ) ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。



(地点: 奄美大島手花部, 辺留, 土盛, 万屋の平均値)



(地点: 奄美大島手花部, 辺留, 土盛, 万屋の平均値)

防除に関する今月の留意事項

1. サツマイモ

(1) サツマイモ基腐病

次作の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

<育苗床>

ア 育苗床では、萌芽の確認や育苗管理及び採苗作業で繰り返し出入りするなど、再汚染のリスクが極めて高いため、育苗床専用の長靴や手袋などを使用する。

イ 萌芽した芽に変色やしおれ症状が見られた場合は、直ちに種いもごと抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。また、萌芽せずに腐敗した種いもも掘り取り、同様に処分する。抜き取り後は、速やかに銅剤を散布する。

<採苗>

ア 基腐病等の感染を抑えるため、地際部から5cm(2~3節)以上の高さの位置で採苗する。

イ 採苗するハサミの刃先は、こまめにバーナー等であぶって殺菌・消毒する。

ウ 苗消毒は、採苗後速やかに行う。薬液は、日光や汚れなどで消毒効果が減少するため、使用日ごとに毎回調整する。

<ほ場の準備>

ア 排水不良なほ場は耕盤破碎や明きよの設置を行い、ほ場外への排水を促す。

イ 排水路側の枕畝は表面排水を妨げるため作らない。枕畝を作った場合は、その途中に排水溝を設置する。また、ほ場外の排水路は、つまりがないか確認する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 (https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221018104909-1.pdf, https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221226173000-1.pdf), 農研機構 (https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf) をご覧ください。



鹿児島県
サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル(第3版)
令和4年10月改訂



鹿児島県
さつまいも育苗の
ポイント
(令和4年12月)



農研機構
サツマイモ基腐病の
発生生態と防除対策
(令和4年度版)

II. 野菜

1. キュウリ

(1) ベと病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや少

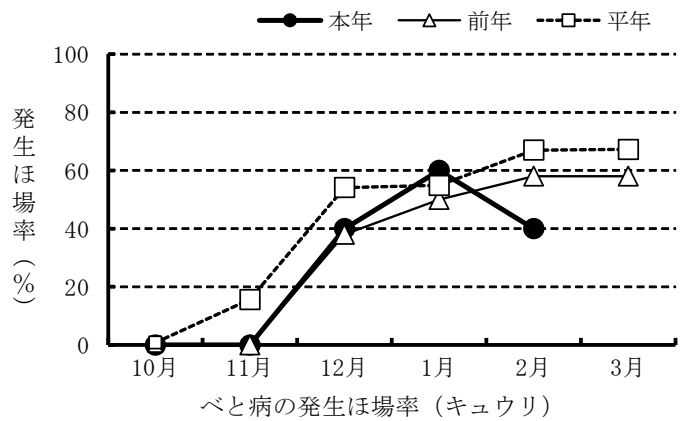
イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率40%（平年64%）
：低い（-）

発生程度の高いほ場を認めた（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウスの通風換気に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、ハウス外に持ち出して処分する。
- (ウ) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、早めに防除する。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



(2) 退緑黄化病

ア 予報内容

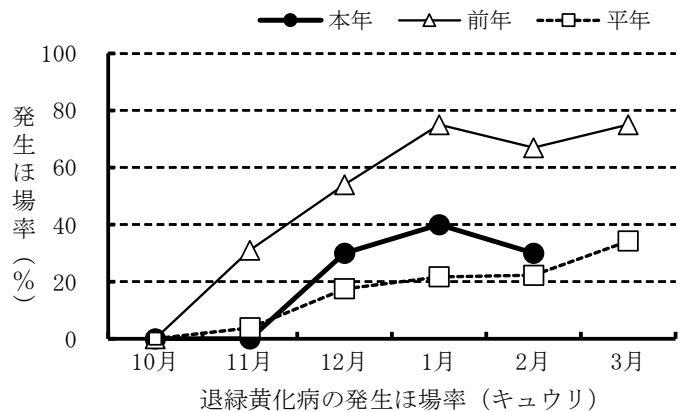
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率30%（平年22%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発病株を認めたら速やかに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (イ) 退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV）はタバココナジラミが媒介するので、ハウス内に黄色粘着トラップを設置し早期発見と早期防除に努める。
- (ウ) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



2. トマト

(1) 灰色かび病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率31%（平年37%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

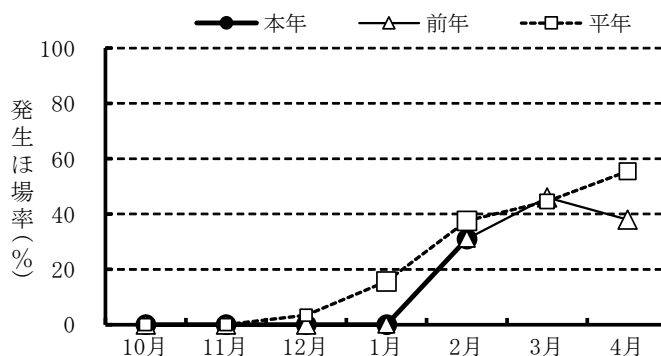
- (ア)ハウスの通風換気を十分に行ない、

過湿にならないよう努める。

- (イ) 果実部やへたの付近に付着する花卉は本病の発生源となるので、こまめに除去する。

- (ウ) 発病葉や発病果実は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。

- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



灰色かび病の発生ほ場率 (トマト)

(2) うどんこ病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率23%（平年15%）
：やや高い (+)

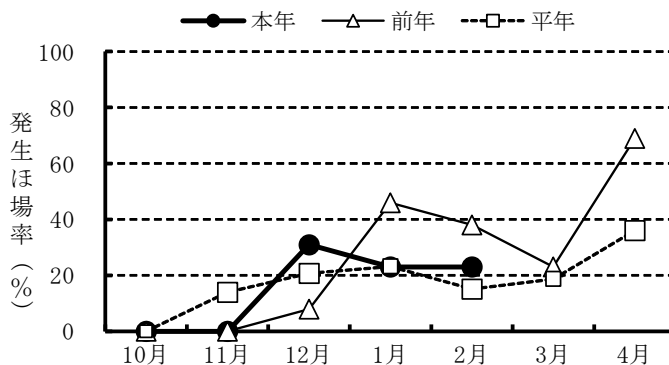
ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。

- (イ) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。

- (ウ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



うどんこ病の発生ほ場率 (トマト)

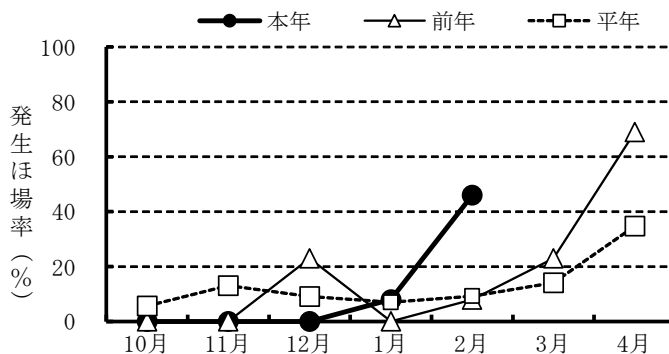
(3) コナジラミ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率46%（平年9%）
：高い (+)



コナジラミ類の発生ほ場率 (トマト)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介する。黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

3. ピーマン

(1) 斑点病

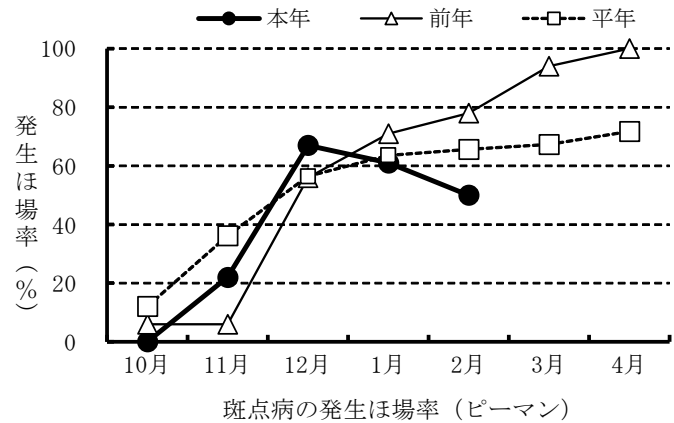
ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率50%（平年66%）
：やや低い（－）

発生程度の高いほ場を認めた（＋）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (イ) 発病葉はできるだけ持ち出して処分し、菌密度の低下を図る。
- (ウ) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

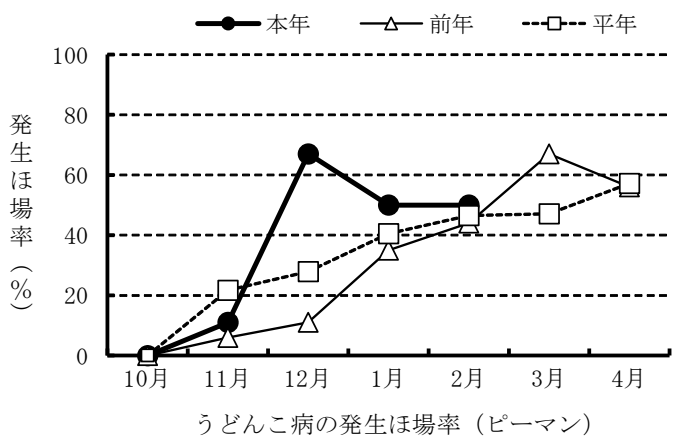
(2) うどんこ病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率50%（平年46%）：並



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (ウ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(3) アザミウマ類

ア 予報内容

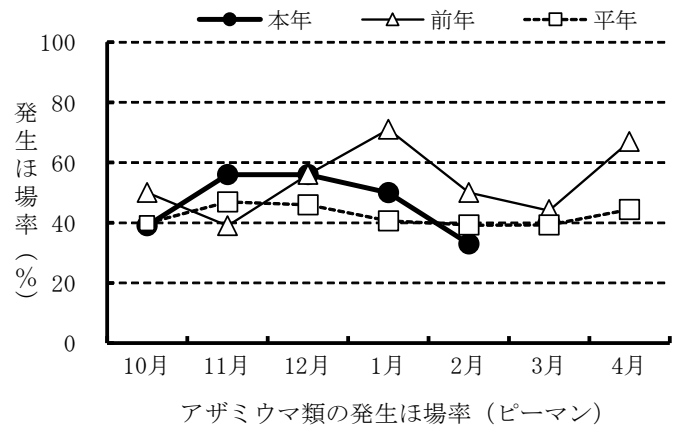
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率33%（平年39%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部等に粘着トラップを設置し，早期発見と早期防除に努める。
- (イ) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では，天敵に影響の少ない薬剤を選択する。また，多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。
- (ウ) 花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので，薬剤散布は丁寧に行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



4. イチゴ

(1) アザミウマ類

ア 予報内容

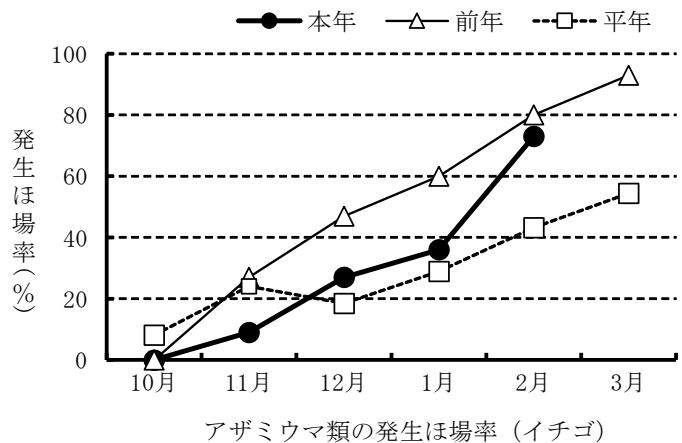
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率73%（平年43%）
：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部等に粘着トラップを設置し，早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので，薬剤散布は丁寧に行う。
- (ウ) 天敵やミツバチを利用しているほ場では，影響の少ない薬剤を選択する。また，多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



(2) ハダニ類 (令和5年度技術情報第14号 (11月8日付け) 参照)

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土
(イ) 発生量 やや少



イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率55% (平年64%)
：やや低い (-)

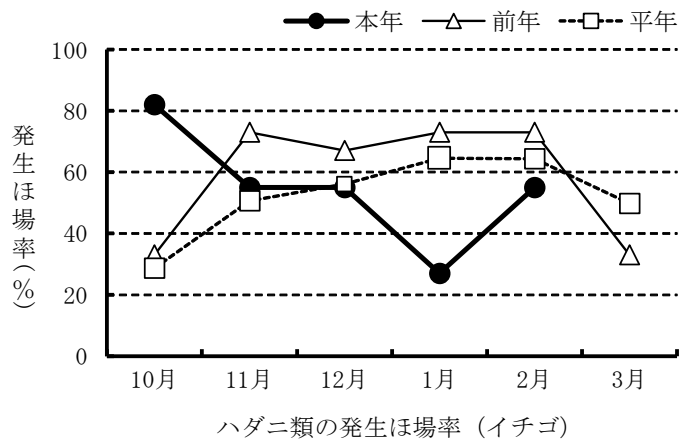
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。

(イ) 薬剤の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。

(エ) 薬剤によっては、感受性が低下しているのので、散布後は防除効果を確認する。



5. キャベツ

(1) 菌核病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率39%（平年24%）

：やや高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

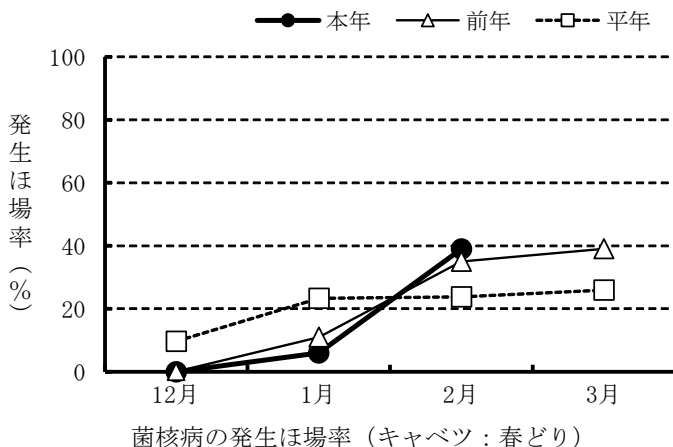
(ア) 多湿条件で発生しやすい。湿度や
土壌水分量に注意しながら、予防散
布に努める。

(イ) 病原菌は地際部から感染しやすいので、薬剤は株元へ十分かかるように散布する。

(ウ) ほ場の見回りをを行い、早期発見に努める

(エ) 発病株や周辺株は次作の伝染源となる。発生が認められたら菌核を生じないうちにほ場外
に持ち出し処分する。

(オ) 収穫終了後の残渣は適正に処分する。特に発病残渣をほ場に残さない。



6. エンドウ類

(1) 褐紋病・褐斑病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

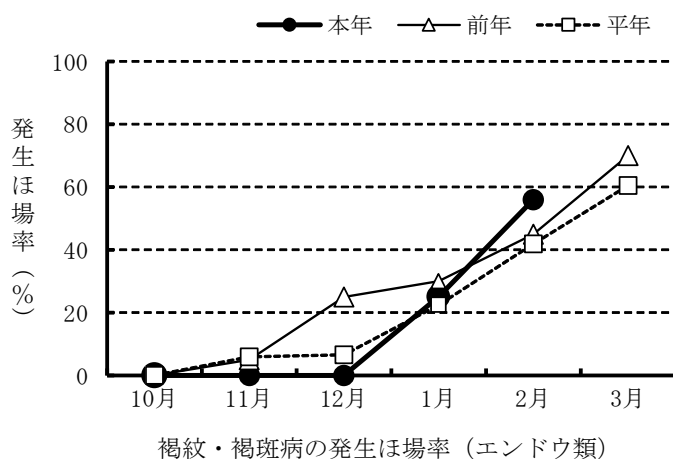
発生ほ場率56%（平年42%）

：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 排水不良のほ場では多発しやすい
ので、排水対策に努める。

(イ) 早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。



(2) うどんこ病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

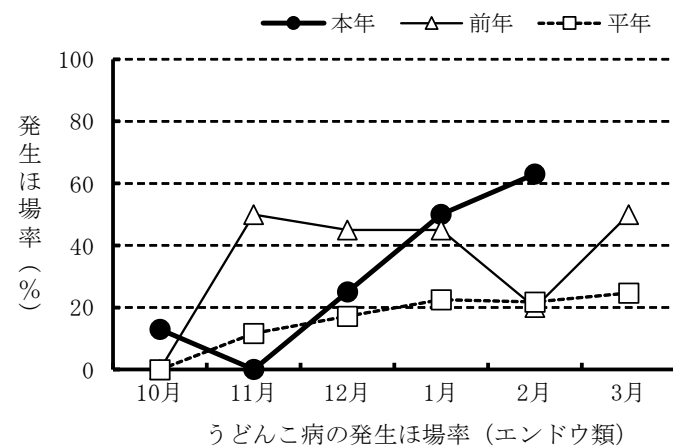
(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率63%（平年22%）

：高い（+）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) かん水不足や着莢負担等による草勢低下で発生しやすいため、適正な管理に努める。
- (イ) 多発するとごま症の発生につながるため、初期防除に努め、下位葉の葉裏まで薬剤が十分かかるように散布する。
- (ウ) 既に発生しているほ場では5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）とのローテーション散布を行う。

(3) ハモグリバエ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

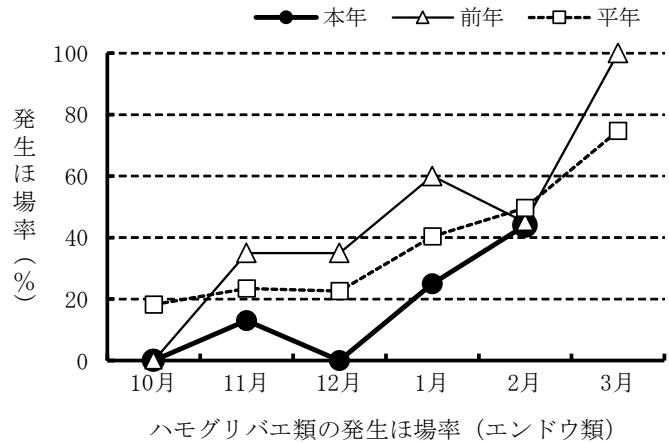
(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率44%（平年50%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 葉に産卵痕があるかを観察し、認めた際は早期防除に努める。
- (イ) 薬剤は葉裏にも十分かかるよう散布する。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）とのローテーション散布を行う。



(4) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

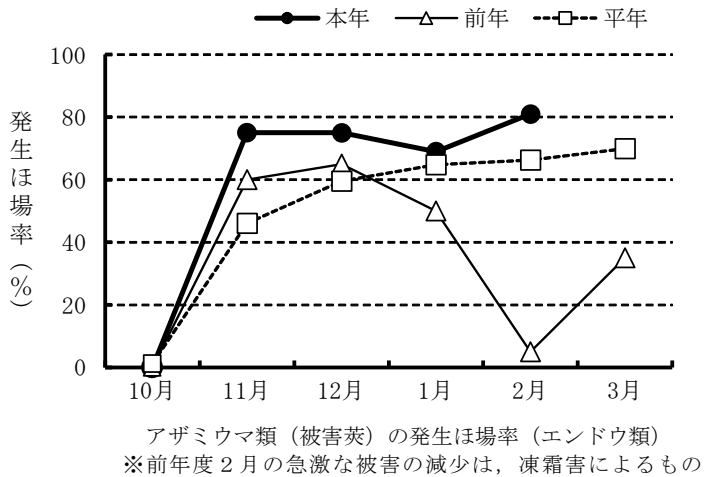
(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率81%（平年66%）：並
発生程度の高いほ場を認めた（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) アザミウマ類は花の子房部分に産卵し、「白ぶくれ莢」となるので、若莢の被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を把握し、初期防除に努める。
- (イ) 薬剤のかかりにくい花卉の奥に寄生するので、丁寧な薬剤散布に努める。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



7. バレイシヨ

(1) 疫病 (令和5年度技術情報12月26日付け) 参照)

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県内全域
- (イ) 対象作型 春作
- (ウ) 発生量 県本土：並
熊毛地域：やや多
奄美地域：多

イ 予報の根拠

<県本土>

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率0% (平年3%)：並

<熊毛地域>

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率50% (平年28%)
：やや高い (+)

<奄美地域>

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率67% (平年56%)：並
発生程度の高いほ場を認めた (+)

(イ) 気象予報

降水量：平年並みか多い (+)

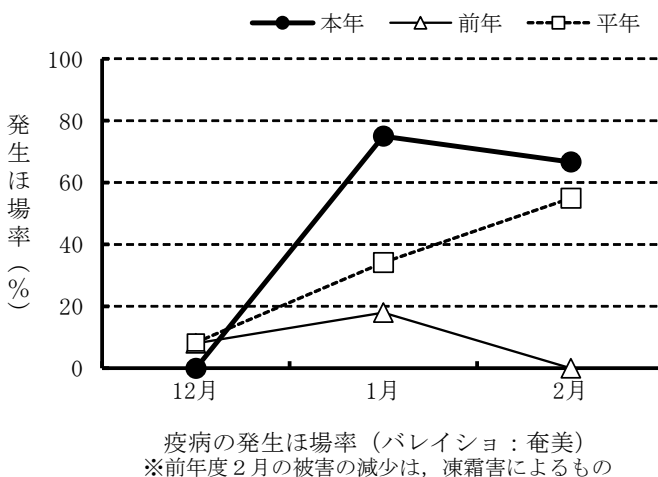
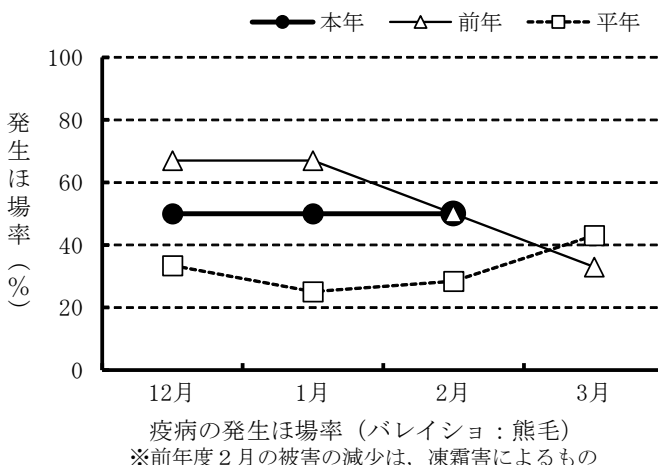
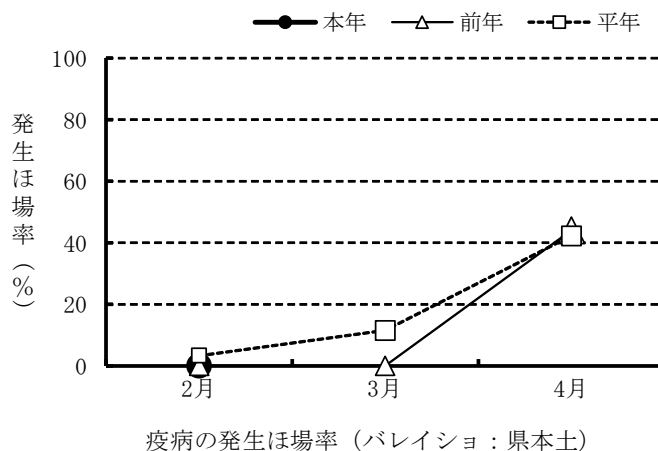
ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ほ場の見回りを行い、発生が認められたら直ちに治療効果のある薬剤の散布を行う。その後は、進展状況に応じて7~10日後に追加散布を行う。

- (イ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布を行う (令和5年度技術情報第17号 (令和5年12月26日付) を参照)。

- (ウ) 収穫が遅れると被害拡大につながるため、適期収穫を行う。

- (エ) 発病株は次年度の伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適正に処分する。



.....

防除に関する今月の留意事項

1. 露地野菜の菌核病

- (1) 今後気温が上昇していくことから、菌核病の増加が懸念される。
- (2) 病原菌は地際部から感染しやすいので、薬剤は株元へ十分かかるように散布する。
- (3) ほ場の見回りを行い、早期発見に努める。
- (4) 発病株や周辺株は次作の伝染源となる。発生が認められたら発病株は抜き取り、菌核を落とさないようには場外へ持ち出し処分する。
- (5) 収穫終了後の残渣は適正に処分する。特に発病残渣をほ場に残さない。発生が多く、ほ場外へ残渣の持ち出しが困難なほ場では、天地返しにより残渣を土中深く埋没させ、次作にサトウキビ、イネ科牧草等の輪作を行う。

2. その他野菜等の残渣処理について

菌核病や軟腐病をはじめ、収穫後の残渣は次作に対して様々な病虫害の伝染源（発生源）となるので、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分する。ほ場外への残渣持ち出しが困難なほ場では、複数回の耕耘により残渣の分解を促す。

Ⅲ. 花き

1. キク

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率30%（平年26%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く

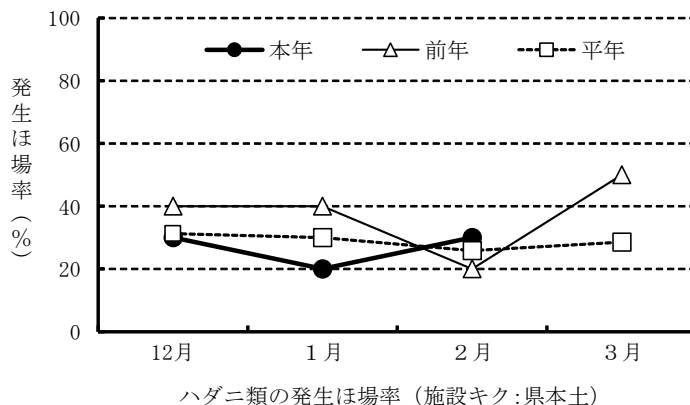
等でスポット状に発生する場合がありますので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 薬剤は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。

(オ) 収穫後の残さは早めに除去し、適正に処分する。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率40%（平年20%）

：高い（+）

発生程度は低い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類はキクえそ病（TSWV）、キク茎えそ病（CSNV）を媒介するので、ほ場への侵入防止と早期発見および早期防除に努める。

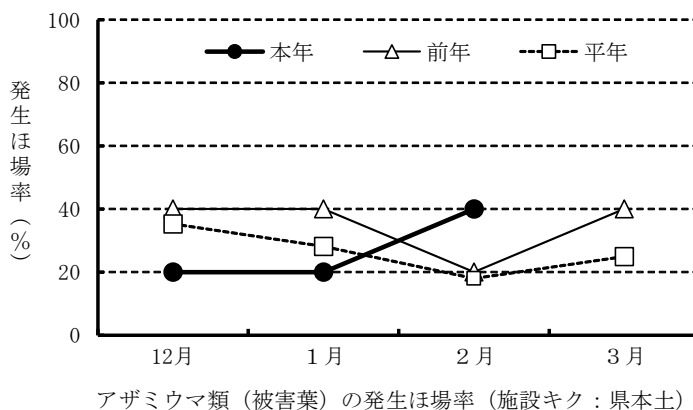
(イ) 発生動向を把握するためには、出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。なお、クロゲハナアザミウマの誘引効率はやや低いと思われる。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) クロゲハナアザミウマは中下位葉にも寄生しているため、薬剤は下葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(オ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。

(カ) 収穫後の残さは早めに除去し、適正に処分する。



IV. 果 樹

防除に関する今月の留意事項

1. カンキツそうか病, カンキツかいよう病

発芽前～発芽期の防除が重要で, 本年は気温が高く推移し発芽が早まっていることから, 以下の点に留意して防除対策に努める。

- (1) せん定が終わっていないほ場では罹病葉の除去に努め, 伝染源となる越冬病斑量を少なくする。
- (2) そうか病は, 春葉への感染を防ぐため, 生育状況をよく観察し発芽期の防除適期を逸しないよう努める。
- (3) かいよう病は, 菌密度が高くなると薬剤の効果が上がりにくいので発芽前・発芽期防除に重点を置き, 春先の菌密度を低く抑える。

V. 茶 樹

1. チャ

(1) 赤焼病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率3% (平年0%)：多

1㎡当たり病葉数0.3枚 (平年0.0枚)：多

発生程度は低い (一)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 幼木園，常発園地および耐病性が弱いとされている品種(注)の園地等を中心に見回り，初発生を見逃さないよう注意する。

(イ) 初発生を確認した園地では速やかに防除し，発生の激しい園地では3月までに数回の防除を行う。また，強風雨の直前・直後や春整枝直後などで葉に傷が発生した場合に行う。

(ウ) 薬剤は，初発確認直後では抗生物質と銅との混合剤を，その後は銅水和剤を散布する。

注) 県奨励品種の赤焼病耐病性：極弱：かなやみどり，はるもえぎ，弱：はるみどり，あさのか，ゆたかみどり，やや弱：さえみどり，やぶきた，くりたわせ，中：あさつゆ，強：おくみどり，吉田 (2016) による枕崎市における圃場接種試験を引用，一部改変

(2) チャノコカクモンハマキ，チャハマキ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生時期 チャノコカクモンハマキ：早い

チャハマキ：早い

(ウ) 発生量 チャノコカクモンハマキ：やや多

チャハマキ：多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果

	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ
発生量	やや多	多
発生ほ場率	6% (平年 4%)：やや高い (+)	32% (平年 11%)：高い (+)
虫数 (1㎡当たり)	0.11頭 (平年0.04頭)：多 (+)	0.69頭 (平年0.14頭)：多 (+)

(イ) 気 象

冬季の日平均気温 (アメダス加世田：1/1～2/20の平均)：本年11.0℃ (平年8.5℃)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 性フェロモン剤を用いて防除する場合，越冬世代成虫羽化前を目安に設置する。

(3) カンザワハダニ

ア 予報内容

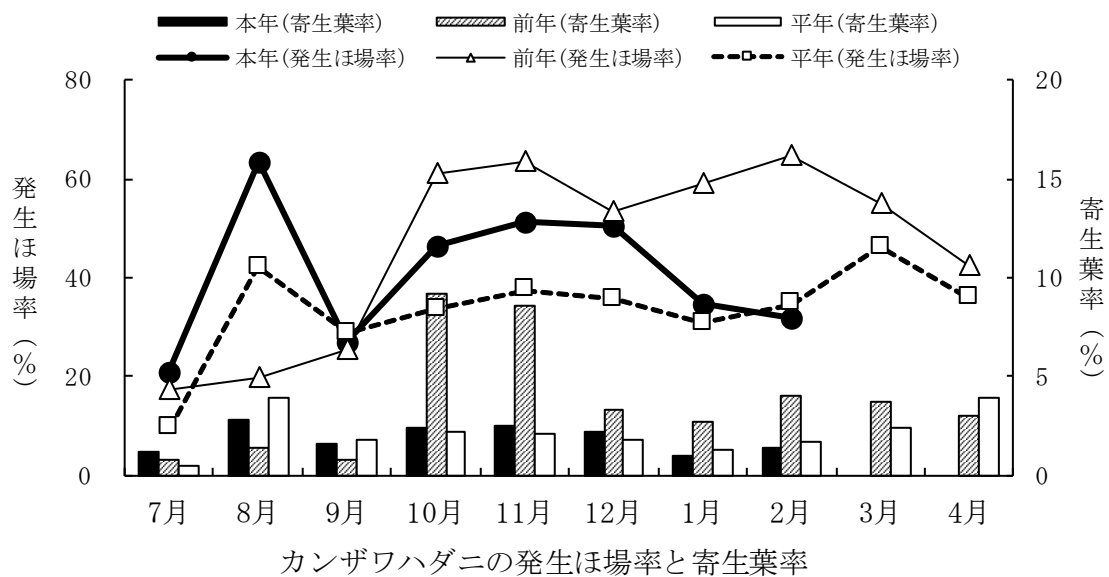
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
- 発生ほ場率 32% (平年 35%)：並
- 寄生葉率 1.4% (平年 1.7%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 平均気温が10℃を超えると産卵・増殖が盛んとなり寄生密度が急増するので、ほ場での発生状況を把握し、春期防除を行う。
- (イ) 薬剤は、裾部・葉裏に十分かかるように留意する。



農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋など）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. 散布時には薬剤がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。
6. クロルピクリン剤は、住宅地および畜舎に隣接するほ場や、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。
7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬および使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（+）、（-）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平年を用いている。